

第2回 第6期大樹町総合計画策定審議会 議事録

日時：令和5年7月28日（金）午後3時00分～午後4時00分
場所：大樹町福祉センター 2階 大ホール

1 開 会 第6期大樹町総合計画策定審議会 事務局長 伊勢 徹則

2 挨拶 大樹町長 黒川 豊
第6期大樹町総合計画策定審議会 会 長 尾藤 宏樹
第6期大樹町総合計画策定委員会 委 員 長 松木 義行

3 協議事項

(1) 序論及び基本構想（案）に関する審議について 【資料1】

・今回会議の審議内容や結論に至らなかった事項については、策定委員会で整理・再検討した後、次回会議開催前に修正箇所等を明示した資料を送付しますので内容をご確認願います。

【質疑応答】

事務局：23頁、「1 人口の推計」において、『令和15（2033）年には、5,270人程度になると推計されます。』と記載されているところだが、図にも示しており『5,002人』に訂正願います。

委員：4頁、「5 計画の進行管理」において、『PDCAサイクルを回し、着実に進めていくこととします。』と記載されているところだが、ローリング方式で5年に1度、評価・見直しを行うということなのか、それとも施策分野ごとに評価・見直しを行うということなのか伺いたい。

事務局：基本計画に掲げる施策分野ごとに評価指標を定めることとさせていただくので、毎年度、住民参画による委員会等を開催し、ローリング方式により評価・見直しを行ってまいりたいと考えている。

委員：6～7頁、「1 人口等の推移」「2 就業構造の推移」において、それぞれの推移が記載されているところだが、近年、他市町村とは比べられない人口増加の兆しがみえているので、もう少し解像度の高い調査が必要ではないか。自然減を上回る社会増があるということなので、その移住者の方々がどこから来たどんな人なのか等を詳しく分析してはどうか。さらに、就業構造についても、第1次産業の就業者数の減少率が大きいとのことだったが、農業者が減っているのか漁業者が減っているのか等を詳しく分析することで、どんなサービスを求められているのかを考える指標となるのではないかと考えるので検討していただきたい。

22頁、「3 将来像」において、『人とひと、人と自然、人と宇宙がつながるまち大樹』と記載されているところだが、『つながる』というのは手段であり、『町内外の人を問わず、誰にも居場所のあるまちをつくりあげていくこと』が目的だと思われるので、将来像の文言にも目的が明瞭にわかるように表記した方が良くはないかと考えるので検討していただきたい。

委員 : 22 頁、「3 将来像」において、『人とひと、人と自然、人と宇宙がつながるまち大樹』と記載されているところだが、農林水産業や商工業等の産業が基盤にあるまちなので、『人と産業』という文言を加えてはどうかと考えるので検討していただきたい。

25 頁、「第 3 章 施策の体系」において、それぞれの施策分野が記載されているところだが、公衆浴場や福祉センター等の老朽化している公共施設の今後のあり方についても施策分野の 1 つとして位置付けてはどうかと考えるので検討していただきたい。

先般、まちづくり住民アンケート調査結果報告書をいただいたところだが、自由意見の中で『総合計画の作成に当たり、まちづくり目標（戦略）を表現する文章は、高級な文章の羅列ではなく、一般町民が読んで理解できる、読んでみたくなる、簡単明瞭な文章で表現すること。』という意見が出されており、私も同意見で、高齢者でも理解できるわかりやすい表現の文章で作成していただけるよう考慮していただきたい。

委員 : 私も町民の方から直接ご意見いただいているが、難しい表現や略語の使用は極力避けて、町民に馴染みのある表現で噛み砕いた文章にしていきたい。

事務局 : ご意見いただいたとおり、わかりやすい表現で作成することを心掛けたい。

委員 : 14 頁、「(2) 中学生・高校生アンケート調査」において、『魅力的なまちとなるために必要な取組について、「商店街の活性化」(42.4%) が最も多く』と記載されているのだが、今後、基本計画（案）について各部会に分かれて審議する中でしっかりと深掘りしていただきたい。

委員 : 8 頁、「3 対話による計画づくり」において、『住民ワークショップ 参加者 26 名』『子育て世代との団体懇談会 参加者 子育て世代の住民 3 名、移住コーディネーター 1 名』と記載されているのだが、当初何名程度の参加者を募ることを目的としていたのか。

前回会議の中で、住民ワークショップの開催方法について、ただ漠然と参加者を募るのではなく、課題を設定して対象者を絞った上で募集した方が良いという意見があり、私も同意見で意見書に記載して提出したところだが、結果としては、その意見が反映されることなく実施されていた。すべての意見が反映されるものではないと認識しているが、こういった議論があつて意見を反映させずに実施したのかという経過の説明をしていただきたい。

事務局 : まちづくり住民アンケート調査については、現行の第 5 期総合計画の策定時は、全世帯を対象として実施した結果、有効回収率 12.0%だったのに対して、無作為に抽出した 18 歳以上の住民 1,500 人を対象として実施した結果、有効回収数 495 票、有効回収率 33.0%となったため、目標としていた 30.0%を超えることができたので、概ね目的は達成できたものと認識している。

住民ワークショップについては、当初 25~30 名程度の参加者を募ることを目的としており、1 グループあたり 5~6 名にわけて意見を出し合ってもらうこととしていたため、26 名の参加者を集めることができたので、概ね目的は達成できたものと認識している。

子育て世代との団体懇談会については、参加者が 4 名ということだったので、開催方法等について、もう少し工夫する余地があったものと認識している。

委員：23頁、「1 人口の推計」において、『生産年齢人口は、やや増加することが予測されています。』と記載されているところだが、一般的には減少していく推計が出されるのに対して、なぜ増加する見込みがあるのか伺いたい。

10頁、「4 第5期総合計画基本計画の評価」において、『第5期総合計画において、「まちづくりの指標」として、目標年（令和5（2023）年）における総人口を5,200人と設定していましたが、令和5年4月1日時点における総人口は5,402人と目標設定値を約200人超える結果となっており』と記載されているところですが、第5期総合計画において、人口・世帯数等の推計として掲げていた目標年（令和5（2023）年）における総人口は5,120人とされており、実績として当初推計よりも282人増加したこととなる。『第5期総合計画に掲げる各施策を着実に推進してきた成果であると推測されます。』と記載されているところだが、人口増加の要因をもう少し詳細に分析する必要があると考えるので検討していただきたい。

事務局：人口の推計については、民間企業における採用の増加や外国人労働者の起用等が主な要因となって増加する見込みとなっていると推測されるが、詳細については、次期総合戦略における人口ビジョンで分析させていただきたい。

委員：昨年、ボランティア活動等を通して、直接中学生・高校生の声を聞く機会があったのだが、『居場所がない』という切実な声を多く聞いている。先般、中学生・高校生アンケート調査結果報告書をいただいたところだが、調査しただけで終わらず将来的に活用していただきたい。ボランティアの一環で、子ども達の居場所をつくってあげられないかと考えたが、空き家がなく断念している。ぜひ未来のある子ども達を大切にしてもらいたい。

事務局：先般、大樹高校で行われた探究成果発表会においても、『中高生が集う場所や子どもの遊び場に関する提案』があったので、子ども達にとって切実な課題であると受け止め、今後様々な場面で検討してまいりたいと考えている。

（2）その他

4 今後のスケジュールについて

7月28日（金）	第2回策定審議会・委員会	（序論・基本構想（案））
8月下旬	第3回策定審議会・委員会・各部会	（基本計画（案））
9月中旬	第4回策定審議会・委員会・各部会	（基本計画（案））
10月上旬～10月下旬	パブリックコメント	（総合計画（案））
11月上旬	第5回策定審議会・委員会・答申	（総合計画（案））
12月上旬	令和5年第4回大樹町議会定例会	（総合計画（案））

5 その他

6 閉会 第6期大樹町総合計画策定審議会 事務局長 伊勢 徹則